

モンテッソーリーの研修会に参加して

平成28年10月29日(土) AM9:00~PM18:00

場所 ちゃいるどはうす森の保育園

記録者 木村裕子

子どもの成長発達に欠かせないものが運動である

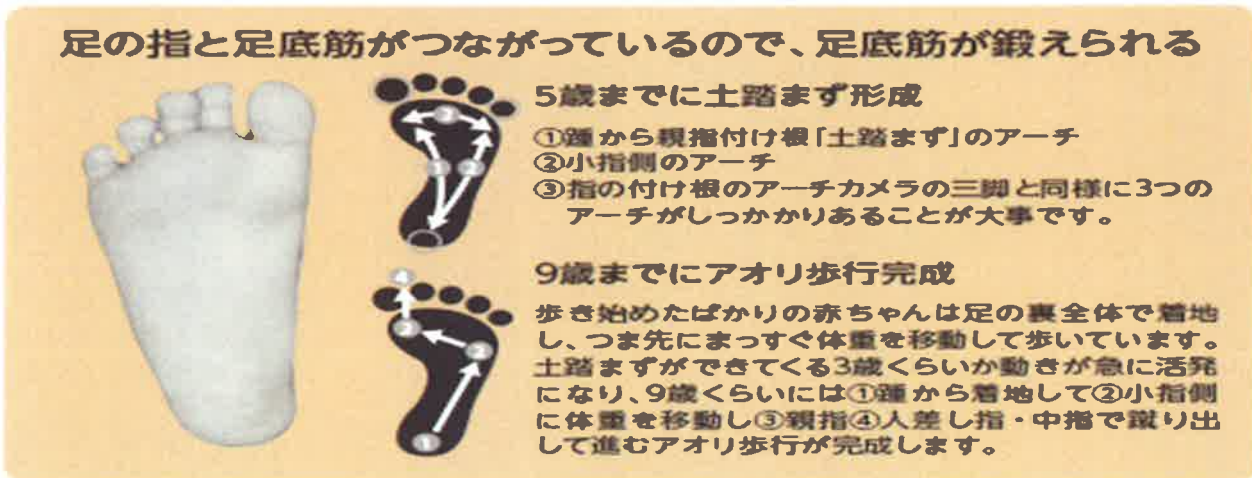
- 1・粗大運動 (身体を動かすような動作・歩く・走る・蹴る・飛ぶ・投げる等)
- 2・微細運動 (指先等動かすような動作。握る、離す、落とす、つまむ等)

現在社会では獲得しにくい動き(運動)

なぜ? 文明の進歩・電化製品の普及・ゲーム脳など・・・

裸足の意義

- 3点バランス (どろんこ保育園 HP 引用)



長時間の講義であったが、ひまわりのお家での保育の取り組みの裏付けがモンテッソーリーの考え方と概ね同じであると感じた。ただ、子どもの発達過程における身体の仕組みが脳からの指令により身体の(指先・手、足指、足、身体全体)働きそのものである知識を理解しなければいけない。それが保育者であり教育者である。そして、支援を必要とされる子どもであっても、支援が必要ない子どもであっても私たち保育士は、どの子どもに対しても受容的対応をしなければいけない。なぜならば1人ひとりの子どもの持つ能力を最大限に引き出していくべきであるから。

それには、それぞれの子ども達に信頼される人間とならねばならない。

言葉の使い方、立ち居振る舞い、全ての行動を子どもは大人の観察をしている。受容的対応とは、何でも子どものいう事を聞く甘やかしとは違う。子どもの出来ない事・問題行動に反応(注意・叱り)するのでなく、なぜ? そうなるのか? その原因は何か?

関わる大人たち自身の行動を振り返り、どうすべきか? 環境はどうか? 検証するべきである。

子どもが問題行動を起こす現象のみに着目し、叱り、注意するだけでは、何も解決しない。増えていくのは問題行動であり、子どもとの信頼関係は離れる方向に向き相互とも、いつも同じやりとりの繰り返しとなる。

発達障害支援SV研修会とモンテッソーリー研修会との共通項がすべてこのことに尽きる。

ひまわりのお家の取り組みこそが、上記に記載した通りである。残念ながら今・・・この取り組みを理解できる職員も少数であることは私の大きな責任である。ただ全力で頑張る職員たちに、伝え続ける責任は大きい。なぜそうなるのか? どうしてそうなったのか? であれば、どうしたらいいのか? を検証していくスキルを身に付けていけるように、その手法を上手く伝えていけるような学びを深めていきたい。